

今村 六王 議員



中学校統合について

Q 中学校の現状について、部活動で人数が少ないために廃部となる部があるのではないか。またそのため3校合同で部活動を行い、中体連等への出場は考えられないか。

A 南阿蘇の3中合同での出場はできない

教育長 中体連の規定では複数校合同チーム編成規約があり、大会参加条件の9項目を満たしていれば参加できる。
一、大前提は勝利至上主義でないこと。二、校数は2校とすること。



中学校の部活動



男女バレーボール部

Q 中学校の適正規模について問う。

A 保護者または住民の皆さん方にしっかりとした意見を伺い進めて行きたい

教育長

部活の衰退も含みながら中学校の統合、これは意味するものと考ええる。「教育環境の強化、充実を図ろうにも現在の生徒数では限界がある。小学校統合より中学校統合を急いで」との意見もあり、中学校のことも考えて年度内には意向調査を実施する予定。中学校の統合については一刻も早くというようなことだと思ふ。しかし実際には総論賛成各論反対のように意見は多く分かれると思ふ。今も現状を見ると統合は早くやっつけていかなければならない、避けて通れない課題でありまとめて行きたい。

村長

北野 悦之 議員



南阿蘇村の子どもに海外研修の基金を

Q 合併前の子どもたちは国内外研修があった。人の出会いを大切にする心、日本を見つめ直す心、この体験する場作りを再設定出来ないか。

A 問題をクリアして子どもたちを世界に送る事も真剣に考えたい

教育長

それぞれの町村でも人材育成基金を作っていた。子どもたちが海外に足を運び何を感ずるか、海外から日本を眺めた時何を感じるか、それを体験させようと大きな目標で行われていた。広域的な考えが出来ないか？対象学年は？学校の授業の関係は？いろいろな問題を精査したい。

Q 本村、長野地区で育ち、幕末の動乱期に彦根藩の家老に長野主膳と名乗り国学者で井伊直弼の師匠として、鎖国日本を開国した偉業を讃えて人材育成基金の名前に戴けないか。

A 人材育成発掘と村おこしにつなげるか考えてみたい

村長

子どもたちの海外研修については、大切なものと考えます。育成基金の命名を長野主膳基金にしてはとの事、主膳については調査が進むにつれて熊本細川家の流れをくむ人物であり、小さい頃長野氏に預けられ、勉学に励んだ事から今その地に長野主膳の修養地の大きな碑が建ててあります。これを村の貴重な史跡として村おこしに、今後の人材育成発掘に、どの形で結び付けるか教育委員会とともに考えていきたい。



南阿蘇村の子どもたち